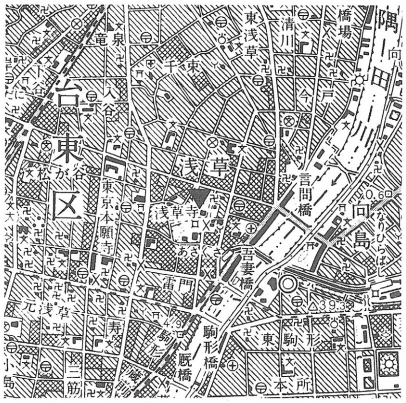
東京・浅草寺遺跡

1 所在地　東京都台東区浅草二丁目
2 調査期間　一九九三年（平5）八月～九月
3 発掘機関　台東区文化財調査会
4 調査担当者　小俣　悟
5 遺跡の種類　集落跡・寺院跡
6 遺跡の年代　古代～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

浅草寺遺跡は、武蔵野台地の東縁に広がる東京湾奥の沖積平野（東京低地）に立地し、当地東方には隅田川（旧入間川）が南流しており、隅田川の西岸には微高地（自然堤防）が南北に形成されている。その微高地が最も広がり、最高所となる地点に本遺跡が位置する。



（東京東北部）

当地には早くから浅草寺が所在している。浅草寺の縁起によれば推古天皇三六年（六二八）に起源があるが、瓦を葺く本格的伽藍が出現するのは、平安時代後期～鎌倉時代初期頃と推定される。

今までに本堂・五重塔再建に際し、確認・発掘調査が行なわれているが、今回は本堂西側整備工事に伴う発掘調査であり、影向堂新築地点を主に調査した。その結果、古代の溝・土坑、中世の土坑・ピット・蔵骨器埋納遺構、近世の土坑・池などが検出されている。また本堂西側には近世から池に囲まれた淡島堂が所在し、六角形の東京都有形文化財六角堂などが配されていた。

整備工事に伴い六角堂などを移動することとなり、その際六角堂の基礎の石組みを確認した。六角堂の下には「井戸」があるという伝承があるが、石組みは切石を六角形に積み、底面にも敷石されていた。その石組み基礎の中には多量の人形・針・古銭・木製品、それに木簡などが廃棄されていた。淡島堂では針供養などが行なわれたので、六角堂の出土遺物はそれに関連するものと思われる。ちなみに遺物の年代はほぼ一七世紀後半～一八世紀前半にまとまる。

なお当調査は現在整理中であり、墨書の釈文などは今後変更もあり得る。また未整理の墨書遺物もあり、本稿は今の時点で判明している状況の報告にすぎない。

8　木簡の釈文・内容

(1)
「（梵字）
○□　奉納坂東□□　天□□□□月
□」　158×38×2　011

(2)
・「○武□〔州カ〕□□□□」
・「○□」　132×(25)×2　081

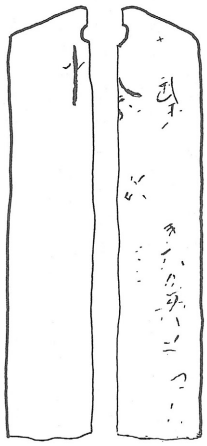
(3)
「天満□
本木□〔板カ〕」　41×21×6　022

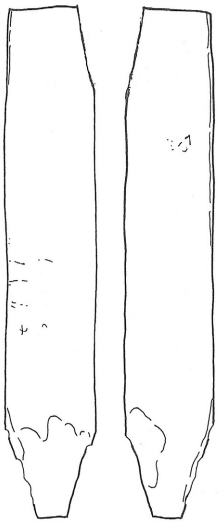
(4)
・「天下太平
之為○
□」
・「寿　仙
柳　○　□」　32×31×3　021

(5)
・「□」
・「□□□□
□□□□ヤ」　512×(88)×9　061

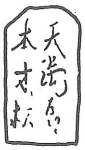
(1)は奉納札であり、坂東三三ヵ所巡礼用と推測される。「天□」が年号とすれば、共伴遺物の年代から「天和」（一六八一～八四年）

(1)


(2)


(5)

(4)


(3)

と思われる。ちなみに浅草寺は坂東札所第一三番目である。

(2)も奉納札であり、縦に半截され左半分は欠損している。(3)は上部を圭頭状にした木札である。(4)は方形の木札であり、中央に穿孔が見られる。裏面は縁に墨が塗られている。

(5)は板塔婆に転用された板材で、両面に墨書が見られるが、裏面とした四行分はかなり薄く、表の一字分（？）が転用後の墨書と推定される。当初の用途は不明であるが、四行分の墨書がある面が本来の表側と思われる。

9　関係文献

台東区教育委員会『台東区の遺跡』（一九九五年）

小俣悟「台東区の遺跡―概要と最近の調査について」『武蔵野』七四―二（一九九五年）

（小俣　悟）